

はじめに

教育を取り巻く環境は、少子・高齢化、グローバル化などの進展に伴い大きく変容し、子どもたちは、今までに経験したことのないような未踏の時代を、一人の人間として自立し、たくましく生き抜いていかなければなりません。

よって、平成28年度は、「伊丹市第2次教育振興計画（H28～32）」に沿って、「伊丹市教育大綱」の重点大綱における柱である①「確かな学力・豊かな心・健やかな体」の育成、②「安全・安心な教育環境の創出と社会総がかりの学校支援」、③「伊丹ならではの教育の推進」に全力で取り組んでまいります。

「確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成」については、授業において、必要な知識や技能の習得をはかるとともに、子どもたちが能動的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」を取り入れ、主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な「思考力・判断力・表現力」の育成、人間性や「学びに向かう力」の育成に取り組んでまいります。また、全ての教員が、子どもたちに「愛情」を持って接し、子どもの頑張りを認め、しっかりと「褒める」ことや、さまざまな体験活動を通して達成感や成就感を味わわせ「自尊感情」を育ててまいります。「体力」は、学力や心への影響も大きく、健康で気力に満ちた生活の源であることから、運動の日常化を図るなど体力の向上に取り組んでまいります。

「安全・安心な教育環境の創出と社会総がかりの学校支援」については、市長部局において設置される「安全・安心見守りカメラ」と「ビーコン受信器」を活用し、通学路の安全対策を充実してまいります。また、学校が家庭や地域との協働を図りながら教育活動を展開する「コミュニティ・スクール」を導入してまいります。

「伊丹ならではの教育の推進」については、伊丹の歴史・文化である「なぎなた」を全中学校の保健体育の授業に取り入れるとともに「全国高等学校なぎなた選抜大会」を引き続き開催し、「なぎなたのまち伊丹」を全国に発信してまいります。また、グローバル人材の育成の視点から2017年度までに中学3年生における英検3級以上の取得者50%、高校3年生における英検準2級以上の取得者50%をめざすなど英語教育の充実に力をいれてまいります。

「伊丹創生元年」にあたって、これらの取組を着実に実践し、教育が「都市ブランド」の1つとなるよう全力で取り組んでまいります。

平成28年3月

伊丹市教育長 木下 誠